

経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI) 開始のご案内

大動脈弁狭窄症 (AS) の罹患率

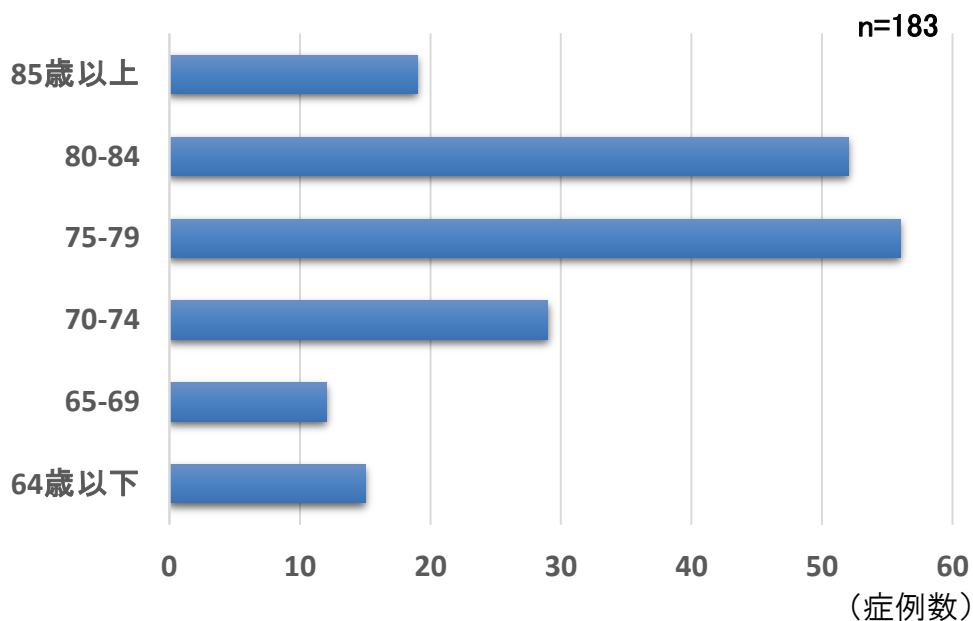
日本国内で65歳以上の大動脈弁狭窄症の罹患率は2~3%と推定され、最も頻度の多い弁膜疾患です。

米国では65歳以上の大動脈弁狭窄症の罹患率は最大7%と推定されています。

日本の65歳以上の人口は2,941万人



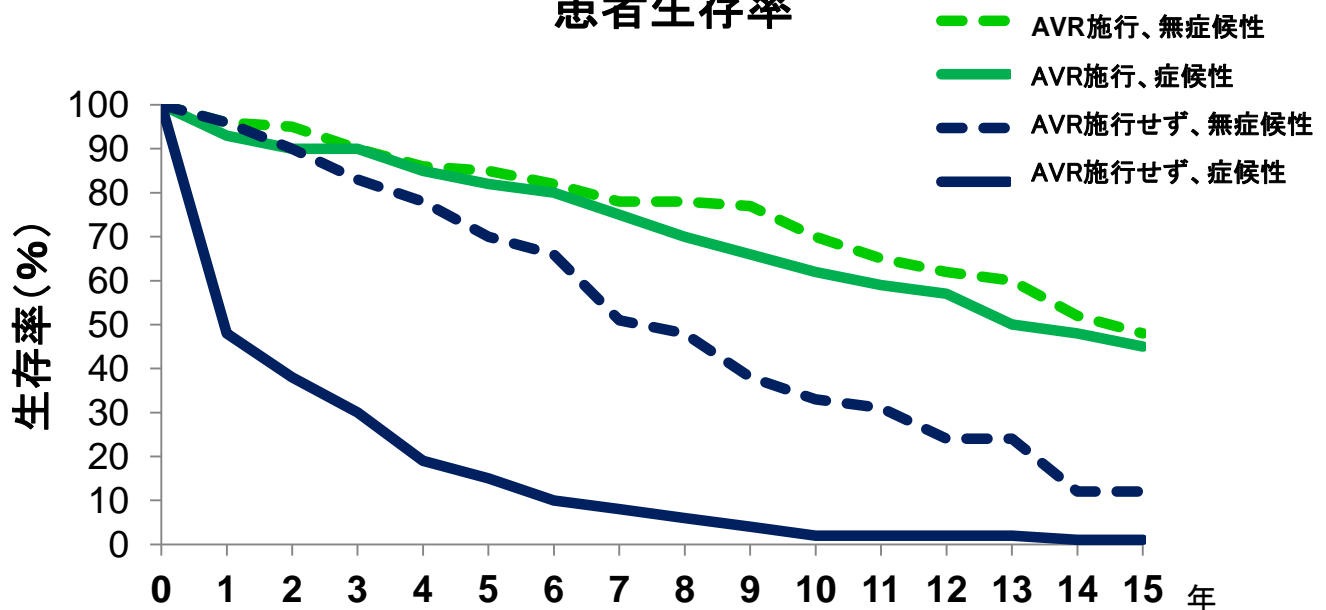
当院における過去5年間のAVR(AS)患者の年齢分布



約70%が75歳以上の高齢者

大動脈弁置換術 (AVR) 未施行の症候性AS患者の予後は極めて不良
1年生存率は50%弱で、5年生存率は20%以下

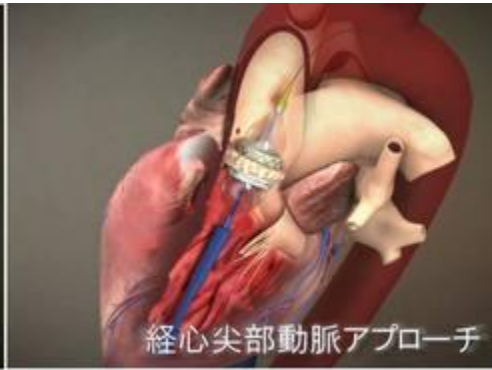
患者生存率



Brown ML et al. J Thorac Cardiovasc Surg 2008

TAVI

「TAVI」とはTranscatheter Aortic Valve Implantationの略語で、「経カテーテル的大動脈弁植え込み術」と訳されます。TAVIは、胸を開かず、心臓が動いている状態で、カテーテルを使って人工弁を患者さんの心臓に装着する治療法です。この治療は、心臓の弁が上手く機能せず、息切れなどの症状が出る「心臓弁膜症」の患者さんで、高齢などの理由で手術をあきらめていた方に対する新しい治療の選択肢となります。2002年にフランスで初めて治療応用に成功し、世界では欧米を中心に9万例近い治療が行われて来ました。現在、日本では、全国で81施設が施行されており、当院も平成27年12月2日付けで大阪府下6施設目となるTAVIの認定施設となり、施行可能となりました。



TAVI Team



循環器センター(循環器内科・心臓血管外科)



看護部



麻酔科



中央臨床工学部(臨床工学技士)